

校長室の窓から
10月に入り、一年の折り返しにきました。
10月9日(火)、三連休の翌日です。子どもたちは、連休後というどうしても気持ちがゆるみがちです。大人である私たちでさえ、連休後は自分で気持ちを引き上げる必要があります。各教室の授業風景を見ると、案の定です。自分の身体が支えられなくて前のめりになっている子、何度もあくびが出る子など、いつもはきちんとしている6年生ですら、行動に切れがないが目立ちます。そのような中、いつも通りあるいはいつも以上に張り切っている学年がありました。それは、4年生です。ノートをとる姿勢もよく、書く文字は丁寧でしっかりしています。よく考えている様子、真剣に話を聞いている様子がうかがえました。4年生の担当の先生方にそのことを話すと、「うれしいです、でも、明日があるからかな」との返事。明日とは、中央地区陸上記録会の壮行会のことです。4年生としては、初めて自分たちだけで下級生の先頭に立って活躍する場。そこに、気持ちがいつているからだとのこと。目標をもって生活するという事は、なんて張りのあることでしょうか。もちろん、10日(水)の壮行会は大成功でした。私たち教職員は改めて「目標(ねらい)をもつことの大切さ」を子どもたちの姿から実感しました。在校生の激励を受けた5・6年生、陸上記録会では、「1秒でも速く、1cmでも遠く高く」を目標にがんばってくれることと思います。また、壮行会で見せた大きな声の返事・立ち姿勢や礼の美しさを、校内だけでなく校外でも見せてくれることも期待しています。



応援後、笑いっぱいの応援団



協力して作ったピザの味は格別(5年生)

9月下旬から10月にかけて、各学年で宿泊学習や校外学習が実施されました。実際にいろいろなものに触れたり見たりと体験ができること、学校内であたりまえにできていることが校外でもできるかどうか見られること、自分だけが楽しむのではなくみんなが楽しい時を過ごせるように我慢すること、などとても意義のある学習だと、私は捉えています。ともすると、子どもたちは学校という枠の外に出た喜びが先に出て、なんのために学習にきたのか、忘れてしまいます。やはり、ここでもねらいをしっかりとって行動することの必要性が生まれます。また、「楽しさ」ではなく、「愉しさ」を感じてほしいと思います。「楽(らく)」をして、おもしろおかしさを感じるのではなく、「我慢」をして周囲の人とともに愉しむことを覚えてほしいと思います。学校で行く校外学習は、家族で行く旅行とは違います。グループで行動することも多く、自分の思いだけでは上手くいきません。今回の校外学習や宿泊学習を通して、友達の輪が広がれば、やってよかった行事だと思えます。

子どもたちは、学校という小さな社会で、人間関係を作ることを学んでいきます。多少なりとも摩擦を生じることはありますが、そこでどうすればいいのか、どうしたらよかったのかを学ぶ機会だと考えています。ご家庭でも、我慢すること、人との関わりを大切にすること、他人のよさを認めることなどを話していただければと思います。

お願い

子どもたちの下校時にお迎えの車が多く、大変危険な状況が見られます。緊急車両が進入するための通路や、障害者用駐車場にも車が駐めてあります。子どもたちの安全確保のためにもご協力をお願いいたします。

昨年度の「二小だより10月号」に言語環境の整備について、書きました。もう一度、ここに載せたいと思います。『友達や先生方とよい人間関係を作るため、自分の思いをきちんと理解してもらうためには言葉は大切なものです。そして、時・場所・相手にあった話し方でないとうまく伝わりません。「相手意識」が必要です。この言葉を発したら相手はどう感じるだろう、相手にわかってもらうにはどう表現したらいいのだろう、声の大きさはどれぐらいが適しているのだろう、と話したい相手を意識することによって、言葉遣いも変わってくると思います。正しい言葉遣いがなされることによって、良好な人間関係が築かれ、互いに気持ちのよい環境になるのです。そして、言葉遣いは学校だけでなく家庭でも養われます。ぜひ子どもが発している言葉に耳を傾けてみてください。大人の聞き上手が、子どもが正しい言葉を遣おうとする気持ちを育てると思います。適切な言葉遣いができる子どもが増えてきています。ご家庭でも、よい言葉遣いができるように励ましてください。』そして、次の3つのことを子どもたちに話しているとも書きました。

- 正しい言葉をつかおう**
 - ふだんつかっている言葉は正しいかな?
 - その言葉だれに言っていますか?
 - 友達をよぶときはどうしているかな?
- つなぐ言葉をつかおう**
 - 言葉は、キャッチボールみたいにつなぐといいね
 - つなぐ言葉のチャンピオンはあいさつ!

- 言葉を広げよう**
 - どれだけ言葉を知っているかな? つかえるかな?
 - 知っている言葉がふえると人に何かを伝えるのがうまくなる。
 - つかえる言葉(語彙)をふやすためにどうする?

言葉遣いに加えて、2学期は「元気の出る聴き方」について、全学年で学習しました。一生懸命話をする人がいても、きちんとした聴き方をしなければ心が通じ合わないからです。先生の話だけでなく、友だちの話聞くにもルールがあることを勉強したのです。そのルールとは、

「体を向ける」「話す人を見る」「相づちをうつ」です。そして、ただ、聴くだけではなく、「元気の出る」というところが味噌です。実際、そのルールと正反対の態度で聴いたときと、そのルール通りに聴いたときでは、話し手の気持ちが全然違うことに子どもたちは気づきました。下手な聴き方をすると話をするのがいやになるし、上手な聴き方で話を聞いてもらうといい気持ちになることを実際に体験したのです。「話すこと」「聴くこと」の両方があって会話が成り立ち、コミュニケーションをとることができます。円滑な人間関係づくりのためにもこのルールを役立てたいと思っています。

体調の管理を
朝夕、急に寒くなり、体調を崩す子どもたちが増えてきました。朝の健康観察をしっかりとっていただくとともに、万が一の場合の連絡先をお知らせ下さい。熱がなくても、眼がだるそうだったり、食欲がない場合には連絡したいと考えております。よろしくご協力をお願いいたします。また、高学年になれば、自分で自分の体調を整えることも徐々に教えていきたいと思っています。大きくなると、どうして休めないときが出てきます。それに合わせて、体調を整える術は、今後生きていく上で必要な力です。寒いと思ったとき、ちょっと風邪気味かなと思ったとき、どのように対処するのかをご家庭でも話し合ってみて下さい。

